

チャペル週報

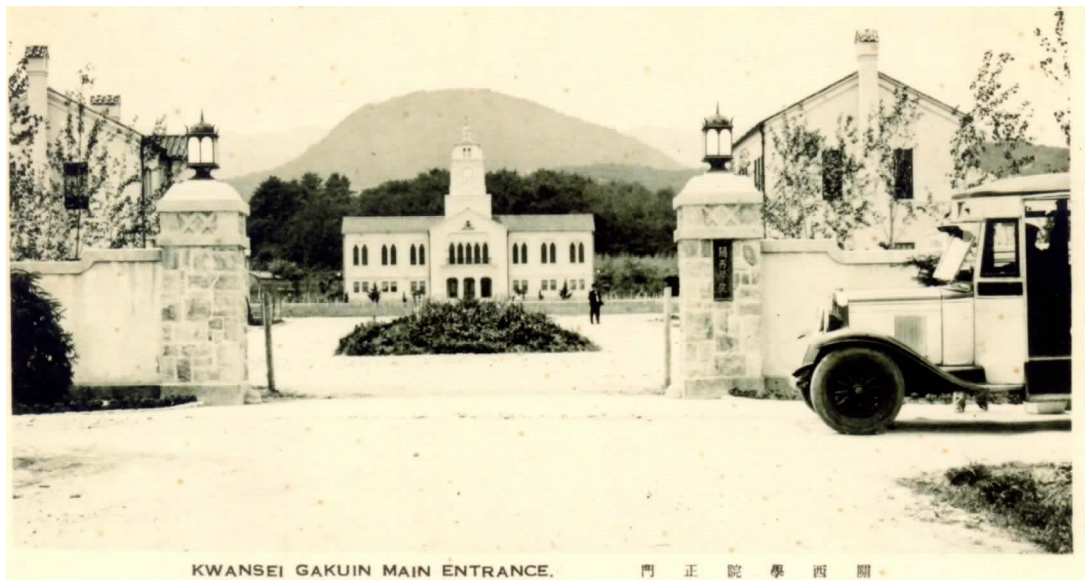
No.17

2022.10.17~10.21

わたしが喜ぶのは 愛であっていけにえではなく

神を知ることであって 焼き尽くす献げ物ではない。

(ホセア書 6章6節)



KWANSEI GAKUIN MAIN ENTRANCE.

門正院學西關

正門より甲山を望む (西宮上ヶ原キャンパス 1930年頃)

<秋季宗教運動特集号>

関西学院宗教センター

「あなたがたの中に、百匹の羊を持っている人がいて、その一匹を見失ったとすれば、九十九匹を野原に残して、見失った一匹を見つけ出すまで捜し回らないだろうか」(ルカ 15:4)。

1匹の羊を捜すために99匹を野原に残すのは愚かなことだと思った私は、勝手に後日談を作りました。

1匹の羊が見つかって100匹に戻った後、今度はあなたが迷子になりました。その時、あなたは羊飼いをどう見るか。羊飼いは必ず私を探しにきてくれるという確信がありませんか。なぜなら、あの時、迷子の羊を探し回って見つけ出したからです。

反対に、探すことをあきらめた場合はどうでしょう。99匹になった群れの中から、さらにあなたが迷子になりました。あなたは羊飼いをどう見るか。羊飼いはあなたを絶対に探さない。そう思いませんか。

1匹の羊を徹底的に守ることは残り99匹をいいかげんにするのではなくて、1匹を守ることで残り99匹を守っているのです。確かに、99匹を野原に残すということは無謀です。しかし、1匹のために命懸けになることは99匹のためにもそうするのです。

私も、今までの中で命を大切にすることの重さを経験したことがあります。

教誨師をしていた時、被収容者の中に38歳の男性と出会いました。彼の家庭はむちゃくちゃでした。彼はやくざになり、覚醒剤を覚えました。逮捕されて刑期を過ごしていた時に発病。末期ガンでした。

彼は過去を悔い、心から温かい家庭のぬくもりを求めています。しかし、この状態ではどうしようもありませんでした。彼は今までの自分と決別し、神様の子どもになりたいと切に願ったのでした。洗礼を受けた彼は、その後、刑務官が驚くほど変わりました。彼の顔が平安になったのです。「先生、私のことをこれから『えいじ』(仮称)と呼んでください」と言うので、別れ際、「じゃ、またな、えいじ」。そう言うと、彼はニコッととてもいい笑顔を見せて私に礼をしました。それから数週間がたって、彼が亡くなったとの連絡が刑務所から入りました。あの時、私は泣き崩れました。大切な大切な友を失った痛みが胸を貫きました。

天では一人の命の重さを教えてくれた、私の友「えいじ」が待っています。再び会いたいです。

彼は、人生最後に神との和解をし、人との和解をしました。神との平和を築き、人との平和を造り出しました。私たちも立っている足もとから平和を造り出す者でありますように。

(日本キリスト教団宝塚教会牧師)

神のまなざしは隅っこを。神の平和は端っこから

吉高 叶

ちょうど10年前の2012年11月から、毎月一度、首相官邸前でゴスペル(賛美歌)を歌う会を続けています。沖縄辺野古の新基地建設に反対する想いを込めて歌い続けています。官邸前では、季節に限らず、春でも、夏でもクリスマスの賛美歌を歌います。道を行き交う人々がぎよっとなさいますが、「もろびとこぞりて」や「荒野の果てに」を朗々と歌います。誰もがクリスマスはイエス・キリストの降誕を祝う日であり、それは12月25日と考えますよね。でも、クリスマスは、神がこの地上に平和を宣言された事件のことなのです。

ルカによる福音書は、イエス誕生の知らせが、野原で野宿をしていた羊飼いに告げられる場面を描きます。突然、夜空に天使の大軍があらわれて、

「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」

と賛美を轟かせたというのです。

「地に平和があるように!」「地の平和のために!」神のその想いは、暗闇の中に宣言され、そして家畜小屋の飼い葉桶に寝かされる赤子の姿となって、この地上に宿らされたのです。

飼い葉桶というのは、人間の世界の中でもっとも周辺の世界(隅っこ・端っこ)を象徴しています。もちろん中央・中心はローマ皇帝アウグストゥスの宮殿です。勅令ひとつで世界中の植民地の民衆を人口登録のために移動させることのできる力を持つ権力者。その力で「ローマの平和(パックスロマーナ)」を誇っていたような時代です。でも、実際に生きていた人々はちっとも平和ではなかったと思います。クリスマスの出来事は、そんな人間の世の「偽りの平和」の闇を引き裂き、「地には平和!」と宣言された日なのです。その徴(しるし)こそが、最も隅っこに生まれた一人の小さな命・イエスだったのです。神が「地に平和」をもたらすために動き出されたのは、ベツレヘムの家畜小屋からでした。神が平和を見つめるところ、それは隅っこであり、神が平和を始められるところ、それは端っこからです。この世に生きる人間を愛し、その命の場(地上)に平和をもたらすために、高いところに鎮座したまま、地を見おろして業をなさるような神ではなく、自らが地上に降り、隅っこを見つめられ、端っこを生きられたというのです。

神のまなざしの低さを「平和の視座」として考えたり、私たちの「平和の視点」として、人間の痛みや悲しみへの想像力や共感力の大切さをごいっしょに見つめてまいりましょう。

(日本バプテスト連盟市川八幡キリスト教会牧師、NCC日本キリスト教協議会議長)

心の中に平和を（人から人へ）

近藤紘子

広島に原子爆弾が投下されて、77年がすぎました。あの日のことなど記憶にない私が広島
の語り部として歩むのは、次の時代を担うあなたたちが神から与えられた命を大切に、平和に
生きて欲しいと祈り、願うからです。1945年8月6日、爆心地から1.1キロの牧師館に
て、母に抱かれて生後八ヶ月の私は家の下敷きになりましたが、奇跡的に助かりました。広島
流川教会の牧師の子として生まれ育ち、廃墟となった広島の被爆者の苦悩を肌で感じ、戦争が
もたらす悲惨さと生き残った被爆者の苦難を知りました。幼い頃、原子爆弾を落とした人達が
悪であって、彼らが広島に爆弾投下しなければ、多くの尊い命を亡くすことも、被爆者の
苦しみもなかったと思い、彼らへの憎しみが増し、何時の日か、この私が敵を討つと思ってい
ました。1955年、米国のテレビ番組で広島に爆弾投下したエノラ・ゲイ号の副操縦士は
「おお、神よ、私たちは何ということをしてしまったのか」と睨み付けていた彼の目から流れ
る涙を見て十才の私は変えられました。自分の中にも多くの罪があることに気づき、私が憎む
べきはこの人ではなく、憎むべきは戦争を引き起こす心の中の悪であることに気づかされまし
た。孤児の為の「精神養子縁組」や「原爆乙女の治療運動」と教会復興の為に奮闘する父が理
解できなかった。「おまえは生き残った者として、広島のために、世界平和のために生きて欲しい」
と言われれば言われるほど、反発していましたが、父の隠退説教で「広島の被爆者の為に役に
たちたいという願いは、あの地獄のような焼け野原の中で、助けてえーという声を振り切っ
て、家族を案じて彼らを見捨ててしまったというエゴへの悔い。それと家族3人無傷に助かっ
たという申し訳なさが、私を広島の被爆者のためにと推進させたのでした」との言葉にやっと
私は父がなぜ広島のために関わったかが理解できたのです。「平和を実現する人々は幸いであ
る。」、口語訳聖書では「平和をつくり出す人たちは、さいわいである。」(マタイ5:9=口語
訳)とあります。何時の時代にあっても、平和をつくり出すことの難しさ、しかしイエスは弟子
達に、いや私達に平和をつくり出す者となりなさい、と語っています。それぞれの心の中に平
和があるようにと、平和の尊さを「人から人へ」と祈り続けていきたいと思い、祈り、願っ
ています。

(広島原爆の語り部)

チャペルアワー スケジュール

西宮上ヶ原キャンパス、西宮聖和キャンパス・・・10:30-11:00

神戸三田キャンパス・・・10:40-11:10

10/17 月

神 神学を学ぶ⑦ 井上 智 (神学部助教)
経 大学キリスト教週間を迎えて① 李 相勲 (宣教師、経済学部専任講師)
人 New Directions (グリークラブ アカペラカルテット)
建 石榑 督和 (建築学部准教授)
聖和 立花クラス ダッドレーチャペル

18 火

神 神学を学ぶ⑧ 小田部 進一 (神学部教授)
文 Andreas Rusterholz (宗教主事)
社 New Directions (グリークラブ アカペラカルテット)
法 大宮 有博 (宗教主事)
経 大学キリスト教週間を迎えて② 舟木 譲 (宗教主事)
商 福島 旭 (中学部宗教主事)
国 井上 智 (宗教センター宗教主事)
理・工・生環 前川 裕 (宗教主事)
総 宗前 清貞 (総合政策学部教授)
教 梶原 直美 (宗教主事)

19 水

神 有澤 慎一 (日本キリスト教団 池田五月山教会)
社 みんなで生きる⑧ 金菱 清 (社会学部教授)
法 Christian M. Hermansen (宣教師、法学部教授)
商 木原 桂二 (宗教主事)
人 桜井智恵子 (人間福祉学部教授)
国 志甫 啓 (国際学部教授)
理・工・生環 貞岩しずく (文学部4年)
教 宗教総部

20 木

大学合同チャペル「総主題：地に平和」
西宮上ヶ原キャンパス (10:20-11:10) 会場：中央講堂
「ぬくもり」
浦上 結慈 (日本キリスト教団 宝塚教会牧師)
神戸三田キャンパス (10:30-11:20) 会場：VI号館101教室
「地に平和～剣を共感力に、槍を想像力に～」
吉高 叶 (日本バプテスト連盟 市川八幡キリスト教会牧師、
NCC 日本キリスト教協議会議長)
西宮聖和キャンパス (10:20-11:10) 会場：メアリー・イザベラ・ランバスチャペル
「心の中に平和を (人から人へ)」
近藤 紘子 (広島原爆の語り部)

21 金

大学合同チャペル「総主題：地に平和」
西宮上ヶ原キャンパス (10:20-11:10) 会場：中央講堂
「地に平和～剣を共感力に、槍を想像力に～」
吉高 叶 (日本バプテスト連盟 市川八幡キリスト教会牧師、
NCC 日本キリスト教協議会議長)
神戸三田キャンパス (10:30-11:20) 会場：VI号館101教室
「心の中に平和を (人から人へ)」
近藤 紘子 (広島原爆の語り部)
西宮聖和キャンパス (10:20-11:10) 会場：メアリー・イザベラ・ランバスチャペル
「ぬくもり」
浦上 結慈 (日本キリスト教団 宝塚教会牧師)

◇ランバス早天祈祷会 毎週金曜日 8:10～8:30 ランバス記念礼拝堂（西宮上ヶ原）
10月21日（金） 中学部のために 藤原 康洋（中学部長）
毎週金曜日、各テーマに沿ったお話を聞き、参加者で祈りを捧げています。学生・教職員の方々に開かれた祈祷会です。ランバス礼拝堂とZoom併用で実施しておりますので、ぜひご参加ください。
Zoomでご参加希望の教職員・学生の方は、宗教センター（shukyocenter@kwansei.ac.jp）へ
①メールアドレス②お名前③所属④関学との関係（学生等）をメールでお知らせください。

●院長室から発信！ビデオメッセージ「風に思う」配信のご案内

院長室からのビデオメッセージ「風に思う」の配信が始まりました。毎回、聖書の言葉を取り上げ、それが今を生きる私たちに何を語るか、短くお話しします。キャンパスの美しい風景と合わせて、関西学院の中心となる精神に触れてください。



（月2回程度で更新されます）

<https://ef.kwansei.ac.jp/about/kazeniomou> 「風に思う」関西学院 院長室からのメッセージ（HP）

●宣教師企画 映画「インビクタス／負けざる者たち」上映会のご案内

日時：2022年10月21日（金）17:00～19:30

会場：図書館ホール（西宮上ヶ原キャンパス）

主催：宗教センター

※下記フォームへお申し込みください。

URL：<https://forms.gle/kVK32dtidTExLFic8>

QRコード→



●関西学院会館ベーツチャペル日曜礼拝

授業期間中の第二・第四日曜日（原則）の午前10時から関西学院会館ベーツチャペルでは日曜礼拝を行っております。

どなたでも（クリスチャンでなくとも）ご参加できますのでどうぞお越しください。

10月23日（日） 10:00～11:00

●第2回 教育研究部サロン「キリスト教と関西学院と私」のご案内

今回は中道基夫院長をお迎えし、キリスト教や関西学院との関りを打樋啓史宗教総主事との対談形式で語っていただきます。参加者との懇談も交えて進めてまいりますので是非ご参加ください。

お話：中道 基夫（院長）

司会：打樋 啓史（宗教総主事）

日時：2022年10月24日（月）17:10～18:40

会場：ランバス記念礼拝堂（西宮上ヶ原キャンパス）

主催：関西学院宗教活動委員会

※対象は関西学院教職員と学生です。

※対面で実施しますが、Zoomでの参加も可能です。ご希望の方は

<https://forms.office.com/r/w0JjbbqvbvM> へお申し込みください。

QRコードはこちら→



●大阪梅田キャンパスチャペル

阪急大阪梅田駅から徒歩すぐ、アプローチタワー14階の大阪梅田キャンパスでは、大学院授業期間中の月1回木曜日にチャペルアワーを開催します。

【どなたでもご自由にご参加ください。】（17:50～18:10 1405教室）

11月10日（木） メッセージ担当：嶺重 淑（大学宗教主事）

●ボランティアに関心がある皆さんへ（ヒューマン・サービス支援室からお知らせ）

単発のボランティアや継続して関わるボランティア団体・サークルの紹介をしています。

[ボランティア参加までの流れ]

https://www.kwansei.ac.jp/c_volunteer/c_volunteer_m_001740.html

[相談予約・お問い合わせフォーム]

個別にボランティアの紹介や相談対応をしています。

<https://onl.tw/UBvnyqX>

●「関西学院クリスマス at ザ・シンフォニーホール」チケット販売のお知らせ

3年ぶりに関西学院最大のクリスマス行事が大阪のザ・シンフォニーホールで開催されます。
参加費（入場料）は宗教活動委員会を通して関連団体に献金させていただきます。

日 時：2022年12月20日（火）17：30開場 18：30開始 20：50終了

会 場：ザ・シンフォニーホール（大阪市北区大淀南2-3-3）

内 容：第一部・・・聖書朗読と音楽で綴る降誕物語とクリスマスメッセージ
第二部・・・学院の音楽団体とゲストによるクリスマスコンサート

参加費：2100円 当日座席指定（16：30より座席券と交換）

チケット販売：

*関西学院大学生協 tel.0798-53-5150（NUC, KSC, NSC で販売）

*チケットぴあ Pコード 226-572

*ぴあ取扱いのコンビニエンス・ストア：

セブン・イレブン、ファミリーマート

*ザ・シンフォニーチケットセンター tel.06-6453-2333（火曜定休）

（ザ・シンフォニーホール内）

主 催：関西学院

共 催：関西学院後援会・関西学院同窓会

問合せ：関西学院宗教センター tel.0798-54-6018

●「チャペル週報」のバックナンバー（2005年以降）は下記で閲覧できます。

URL：<https://www.kwansei.ac.jp/about/chapel/weekly/>

関西学院宗教センター

<https://www.kwansei.ac.jp/about/chapel/>

